

第1回日進市わたしのまちのサポーター会議議事録

日時：平成26年3月15日（土）午前10時～正午
場所：日進市中央福祉センター 2階 多機能室（北）

●出席者：12名

奥野委員、井口委員、板元委員、古川委員、酒井委員、幸村委員、萩原委員、和田委員、数井委員、松島委員、牛田委員、大川委員

●事務局：（福祉部）加藤福祉部長

（福祉課）真野福祉課長、水野主幹、小出課長補佐、杉本係長、久野主査

（社会福祉協議会）青山、天野、日岡（都市造形研究所）細井

●欠席者：関委員、出原委員、竹内委員、中島委員、山田委員

●あいさつ

日進市役所 加藤福祉部長 日進市社会福祉協議会 田中会長

●ミニ講演会

「日進市における地域福祉の将来像について ～各小学校区域の座談会を終えて～」

講師 椋山女学園大学 人間関係学部 准教授 谷口 功氏

- ・これから作る計画は、活動しようと前に踏み出せるような魂の込められた計画になっていくと良いなと考えています。行政が主語となる地域福祉計画と私たち市民や民間が主語となる地域福祉活動計画を福祉を進める車の両輪として一緒に作っていきます。
- ・福祉は生活そのもの。一人ひとりの価値観もあり、合意を見つけるのは難しい作業と思います。地域課題共有の場として座談会やフォーラムを行ってきました。小学校区で座談会行う中で、地域特性による課題の差も出てきました。
- ・今回の座談会では、地域の課題とは、一番広い範囲での生活課題として捉えています。
- ・地域の課題は少し広い範囲であると、解決に向けたお互いの歩み寄りがしやすい。そのため、小学校区の徒歩で通える範囲を対象としました。地域を小さな範囲で考えるなら意見も通りやすく、多様性への対応もできやすい。大きな範囲なら支える人も多くなり、合意点を見つけやすい。互いにメリットデメリットがあります。
- ・福祉の担い手についてですが、活動主体も様々な担い手があるが、市民と行政の役割も常に変わっていく。役割の見直しも必要となる。活動を支えるだけでなく、担い手をどう育てるかも重要である。
- ・地域は排除と包摂の仕組みがある。住んでいる人の意志によってそれは変わっていく。日進も住みやすいと言われるのはなぜか。大きな課題がなく、可視化されないことがそうではないか。無関心が許容される街なのでは。どんな地域にしたいのか。これから考えていきましょう。

●議事

各委員及び事務局の自己紹介を行った後に議事に移る。

(1) 各小学校区座談会成果報告について

- ・資料3・4により、座談会開催方法及び多く出た課題を分野ごとにまとめたものを紹介。
- ・自然環境・交通状況・住宅環境などの地域特性からくる課題の特徴があった。

(2) 今後の会議進行について（意見交換も含む）

- ・資料1・2各計画についての概要を改めて説明。今回は各計画を1冊にまとめ合同事務局にて策定。
- ・委員からの質疑の中で、市民から出てきた課題に対して、活動の主体や役割分担を明確にし、個別の問題に対しても、いかに地域の課題として共有していけるのか、サポーター会議の中で考えていくとの説明を補足する。また、次回どのような検討をするのか早めに知りたい。第一次計画について、どのような評価がなされているのか知りたいとの意見をいただきました。次回のご案内時には、明確な意見が頂けるように資料提供等を行いますと回答する。
- ・事務局発議により、会長：井口・副会長：数井での提案をするが、委員内にて投票をするなど公平にすべきではとの意見もあり。ただし、4月開催のわたしのまちのしあわせづくり委員会にて、本会の代表者となるため、今回決めなくてはならない理由もあると説明し、また、推薦された両氏から、それぞれの思いが伝えられた後に決を採り、提案通り可決となる。

●閉会あいさつ

日進市社会福祉協議会 青山事務局長

午後12時20分 終了